

学報

学校法人 北海学園

北海商科大学



Vol.06

2009.6.1

発行: 北海商科大学
編集: 北海商科大学広報委員会
〒082-8807
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL: 011-841-1161(代)
FAX: 011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作: (株)ラボット/エディアワークス

Hokkai School of Commerce News Letter

主な記事

学部長・センター長挨拶	2面
2009年度入学試験	2面
外国語スピーチコンテストで優勝者	3面
教員インタビューほか	4面
栗山町との地域総合交流協定	5面
東アジア観光情報学研究会設立	5面
ハйнаス10周年記念シンポジウム	5面
2008年北海商科祭開催	6面
2009年度サークル紹介	6面
2009年体育祭開催	7面
教員・職員紹介、父母説明会・行事予定	8面
公開講座、交換留学生訪日	8面

TOPICS... 話題1

2009年度入学式挙行

平成21年度入学式が4月3日、札幌パークホテルにて、新入生158名、交換留学生17名を迎え挙行されました。

会場には、受付時間を前に、早くから新入生やご家族のみなさんが集まり、あらためて新年度の始まりを感じさせ、会場は初々しい息吹に満ちていました。

「アジアの時代に、アジアを学ぶ」という本学の実践的教育目標は、札幌キャンパス開学以来短期間のうちに広く知れ渡り、優秀な学生の入学にむずびついています。

多くのご来賓、ご家族のみなさん、教職員の列席のもと、森本正夫学長の式辞が述べられ、新入生はこれから過ごす4年間を前に、大学生活への思いを新たにしましたことでしょう。



新入生代表・山腰寛子さんによる宣誓



中国・韓国交換留学生と日本人学生との交流 (5月10日花見会において: 札幌市・円山山頂にて札幌市街地を背景に)

アジアの時代に、アジアを学ぶ!!

MESSAGE..... 挨拶1

森本正夫学長祝辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。中国山東大学威海分校、中国煙台大学、韓国大田大学校からの留学生、ようこそいらっしゃいました。北海商科大学は、北海道で最も古い歴史と由緒ある伝統を誇る私学の名門、学校法人北海学園の一翼を担う大学の一つです。北海学園大学が五学部を有する総合大学であるのに対して、北海商科大学は商学部だけの単科大学としての体裁を維持し、専門的に商学を基軸にする教育・研究を深めるとともに、世界の動きを察知して、そうした動きに対応しうる機動力のある新しい大学運営を目指して設置されました。

いうまでもなく、今後、アジアを中心に世界は動いていきます。商取引業務 (Commerce) も経営業務 (Business) もアジアに集中してくると思います。これからのアジアでは、環境に配慮した観光産業がGDPの大

きな割合を担うことになるでしょうし、コマースやビジネスがアジア経済の主要な構成要素になっていくことはまちがいがありません。本学の教育目標はこうしたアジアで活躍する人材を育てていくことにあります。皆さんは、このような本学の教育目標に沿って、まず実践的な「商」活動に欠かせない語学力を身につけます。言葉の交流ができ

なければアジアを見据えたコマースもビジネスも成立しません。そのために海外留学プログラムが用意されております。また、グローバルな経済状況はコンピューターの普及によって促進されております。この技術を習得することも「商」活動には不可欠です。このためのプログラムが実践教育の一部として組み込まれております。

皆さんが本学において、国際時代とりわけアジアの時代の責務を果しうる人材に成長していくことを大いに期待しております。若い、成長期の大学ですが、皆さんと教職員が一丸となって、北海商科大学の独自の校風を創りあげていくために努力することを誓いたいと思います。

2009年4月3日



2009年度入学式で式辞を述べる森本正夫学長



理事長・学長 森本 正夫

MESSAGE..... 挨拶2 学部長・センター長挨拶——新年度にあたって

新年度にあたり、本学学部長・各センター長と各センターの機能、役割について紹介します。

本学の カリキュラムの特徴

商学部長
教務センター長
西川 博史 教授



本学のカリキュラムの特徴は次のようです。1.グローバルな視野を育み、アジアや世界で活躍できる人材育成を目的とする語学習得と海外留学プログラム。2.コンピューター技能の習得を目指すリテラシープログラムの充実。3.教養科目と専門基礎科目の併設による基礎知識の充実。4.双方向の授業展開によるコミュニケーション能力の向上をはかる少人数教育。5.独自の教育システムによる専門職資格の取得。6. GPA制度の導入による習熟度評価システムの活用などです。大いに勉学に励んでください。

学術発展センターの 目的

学術発展センター長
伊藤 昭男 教授



大学の使命は教育・研究を通じて有

為な人材をいかに育成し、世に送り出すという社会の発展において最も重要な機能の一端を担っていることでありましょう。学術発展センターはそうした機能の充実・向上に心機一転して取り組むため、他の諸センターと共に昨年度に設置された本学独自の新たな機関です。大学公開講座や学内研究会の開催、図書選定、各種研究助成対応などの定例業務に加えて、大学認証評価対応など時機に応じた業務対応を行ってゆく予定です。新しい機関で模索すべき点も多々ありますが、個々の業務が本学の学術発展に結びつくよう本学全ての関係者のご協力を頂き、推進して参りたいと考えております。

志願者増加と 新たな入試体制

入試・広報センター長
細野 昌和 准教授



本学札幌キャンパスを開設して今年度で4年目になります。年々本学の知名度の浸透が進み、全国的な少子化の影響を打ち消す勢いで志願者の増加が続いてきました。しかし、今後は本学にも少なからず少子化の影響が及ぶものと考えられます。そのため、開設時の入試体制から、新たな入試体制への移行が求められる時期に差し掛かって

いると言えます。平成22年度入試からの地方試験場の開設を始め、各試験方式の定員枠の改正などにも取り組んでいく予定です。

学生への 期待

キャリア支援センター長
中島 茂幸 教授



皆さんは、「就職」が自分自身のことであり、自分で「就活」し、自分で道を切り開いていくのです。そのことを自覚して欲しい。企業との出会いでは、自己の輝きを訴えなければ採用されません。ゼミ研究、サークルやボランティア活動など等、一つのテーマを少なくとも2〜3年継続して学んでいることです。自分が継続して取り組んできた結果、「何か」を得ると思います。それを自分で考える。それこそが、自分の売り材料なのです。

学生支援センターの 役割

学生支援センター長
村越 雅雄 教授



昨年度、「学生部」から「学生支援センター」と名前が変わりました。教

務、キャリア（就職）支援以外の、学生生活全般を支援することが主な仕事です。具体的には、課外活動（サークル）、奨学金、学生の福利厚生、学生どうしの、あるいは教員と学生のあいだのトラブル解決などの支援が中心となります。「支援」のためには、「相談活動」「対話」が欠かせません。学生のみならず、遠慮なく、権利意識を持って、「支援センター」に相談してみてください。

北海商科大に おける国際交流

国際交流センター長
加藤 由紀子 准教授



本学は、北海学園北見大学の時代から国際交流に力を入れており、交流協定を結んでいる中国の山東大学威海分校、煙台大学、韓国の大田大学から研究者と学生を迎え、また学生の派遣をおこなっています。

今年度は、カナダのレスブリッジ大学からも北海学園大学と共に交換学生を受け入れます。加えて、留学生を中心に、札幌市や地域交流協定を結んでいる栗山町などの国際交流を活発におこなっていきます。これらを契機に学生が幅広く交流を広げていけるような場を作っていきたいと思います。

TOPICS.. 話題2 2008年度卒業証書・学位記授与式挙

平成20年度卒業証書・学位記授与式が3月18日、札幌パークホテルにて



卒業生代表・村上護さんによる答辞

挙行されました。

今年度、新たに社会に巣立つ卒業生は、北見キャンパスでの最後の入学生でした。札幌キャンパスへ移設後の新生北海商科大学の最上級年次としてサークル活動・学祭開催などの牽引役となり、交換留学生との交流にも率先して関わるなど、北見、札幌と2つの校舎に様々な思い出を作りました。

今後も就職先など、新たな活動の場での活躍を祈ります。

REPORT.. 報告1 就職について

平成21年3月卒業生の就職率は90%を少し超えました。厳しい状況の中で学生が頑張って活動した成果ではないかと考えています。

ところで…

「就職」ってどうするの？

「就活」ってどんなことをするの？

大学を卒業する時まで就職できていたのかな？

ほとんどの学生が、疑問や悩みを抱えながら、漠然とした恐怖を感じながら、進んでいます。その先に就職があります。ただり着くには、まず、自分をしっかりと見つめることが大切です。

自分とは何か？

自分はこれまで何をしてきたか？

自分の長所や短所は何か？

自分のできることは何か？

自分が将来に向けてやりたいことは何か？ など等…自分発見です。

簡単そうですが、なかなか厄介なのが自分であり、ここからスタートです。

その上で、企業を検討しますが、就職とは、学生と企業との見合い結婚みたいなものです。自分が良くても相手

キャリア支援センター長 中島 茂幸 教授

が良くなければ成立しません。出会えるまで探そう。

出会いの時に必要なのは、実績を伴った自己PRです。輝くあなたです。そのために大学時代を充実して過ごしておきたい。大学で何を学んだか、どのようなことに力を注いで取り組んできたか。継続的な研究や活動（旅行・ボランティア）など等…。

企業で面談したときに、何かを語れるように取り組んでおきたい。

「玉磨かざれば光なし、人学ばざれば道なし」、自分で自分を磨き続けることが大学生活での重要な仕事です。



北海学園大と共有の就職支援サイト「ミナトコム」



学内での企業研究会

REPORT.. 報告2 2009年度入試結果概要



2008年第2回オープンキャンパス

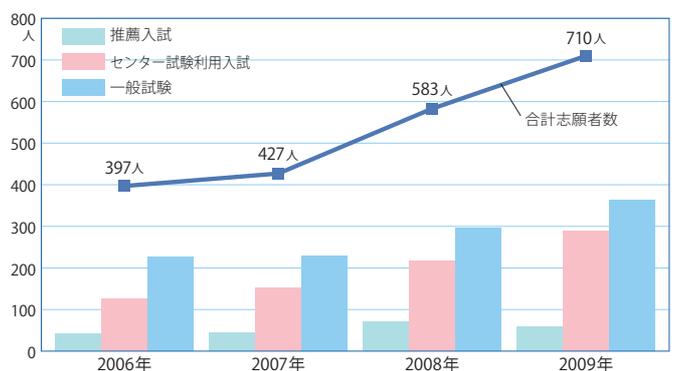
2009年2月13日、本学の平成21年度一般入学試験が実施されました。札幌キャンパス4回目の入学試験になります。

いわゆる少子化現象が進行し、18歳人口が大幅に減少し続けているうちに、首都圏の大学が地方試験の実施を拡大するなど、在札幌の大学は志願者の獲得が難しい状況になっています。そのため、多くの地元大学では志願者の減少に歯止めがかからないのが現状です。そうした中であって、本学の志願者数は昨年度に続き今年度もさらに増加する結果になりました。

商学科と観光産業学科の合計定員150名に対して、一般試験やセンター試験など各試験に対する志願者の合計が昨年度は583名だったのに対し、今年度の志願者は710名となり、21.8パーセントの増加となりました。その結果、志願者倍率は昨年度の3.9倍に対して今年度は4.7倍と大幅に高くなる結果になりました。これは、特徴ある教育内容など北海商科大学の大学としての魅力が、さらに広く高校生や父兄、先生たちに知れ渡ってきた効果と考えることができます。

志願者の増加に伴い合格倍率も上昇し、学外の関係筋からその高さを指摘されている本学志願者の学力レベルがさらに高くなる傾向も伺えます。こうした志願者の期待に応えるために、これからも本学は特徴ある教育と充実したキャンパスライフの場を提供するのみならず、札幌キャンパス開学4年目を迎え、優秀な人材を育てて社会に送り出していきます。

入学志願者数の推移



REPORT.. 報告3 APQ関係資格合格者数

本学では、各学科の専門科目を基礎として一層のキャリアアップを図る目的で、専門キャリアアップAPQ (Advanced Professional Qualification) 科目を開講しています。表は2008年度における教育成果の一部を表した検定試験合格者数です。表からは、APQ教育が開始されて時間が浅いにもかかわらず、着実に成果が挙がってきていることがみてとれます。今年度は開講するAPQ科目も増えることから、今後さらなる成果の向上が期待される場所です。

現在は100年に一度といわれる経済不況の最中にあり、学生諸君の将来には厳しい就職活動が予想されます。もとより資格取得は、就職への十分条件ではありません。しかし、就職活動に際して、資格が自己の持つ能力の一部を企業側にアピールするための有効なシグナルとなり得ることは間違いなく、その意味では、資格取得が就職に向けた必要条件となりつつあるといっても過言ではないでしょう。もちろん、資格取得過程での学習努力は、本人の自信にもなり、学生諸君には、APQ科目を積極的に活用して、資格取得に向けて努力することを期待します。



情報管理理論・EXCELの資格講座

2008年度APQ関係検定試験合格者数

科目名	試験名	級等	合格者数
PAL (I・II)	HSK (中国語)	6級	2
		5級	2
		4級	9
	TOPIX (韓国語)	4級	2
		3級	4
	TOEIC (英語)	600点以上	2
599~550		4	
549~500		11	
情報管理理論 (I・II)	MCAS	EXCEL	56
		WORD	44
税務会計論 (I・II)	税務会計能力検定	2級	7
		3級	9
通商実務論 (I~III)	貿易実務検定	C級	1
旅行業務論 (I・II)	旅行業務取扱管理者	国内	7

注)TOEICに関しては、PAL受講者以外の受験者を含む

TOPICS.. 話題3 2008年度留学生修了式

平成21年2月20日に、本学の交換留学プログラムにより今年度受入れをしていました、煙台大学 (中国)・山東大学威海分校 (中国)・大田大学校 (韓国)からの交換留学生19名の修了式が挙行されました。また、併せて今年度後期に前述の各大学に派遣留学していました本学学生の留学報告も行われました。

交換留学生には森本正夫学長から一人一人に修了証書が手渡されました。その後、明治18年 (1885年)の北海英語学校の創立に始まる学園の歴史、その頃の北海道の自然と先住民族であるアイヌ民族の豊かな自然適応文化の紹介、21世紀はアジアでも女性の時代になるであろうこと、アジア諸国が相互的に助け合ってアジア地域を豊かに作り上げて行かなければならない



修了式・報告会後の交流会



2008年度留学生修了式

こと、そして「いつでも母校として訪ねて欲しい」と語りかけ、今後の異文化社会の架け橋となるよう激励の異辞を述べました。

修了生からは煙台大学の郭邦 (グオウェイ) さんは「掛けがいのない1年間だったこと」、山東大学威海分校の李艳景 (リー イェンジン) さんは「日本人の考え方を理解することができたこと」、大田大学校の崔賢姫 (チェヒョン) さんは「忘れられない楽しい1年間だったこと」など、大切に前向きに生きていきたいとそれぞれ謝辞が述べられました。

その後本学の派遣留学生から、それぞれ中国・韓国語で映像を交えた報告がなされました。終了後は交流会へと続き、和気あいあいとした中で、思い出を噛み締めながらの有意義な会となりました。

TOPICS.. 話題4 外国語スピーチコンテストで本学学生が続々入賞

三瓶司眞さん 「漢語橋」北海道予選優勝、北京へ!!

5月9日に行われた第8回「漢語橋」世界大学生中国語スピーチコンテスト北海道予選大会で、三瓶司眞さん (商学科4年) が優勝、大串多恵子さん (観光産業学科2年) が第3位に入賞しました。

優勝した三瓶さんは「幼い頃から学んでいた書道の経験もあってか、大学で出会った中国語に心ひかれ、中国語が人生を大きく変えた」とスピーチ。夏には50ヵ国以上から学生が集まる北京での世界大会に出場します。三瓶さんは1年次に留学プログラムで山東大学威海分校へ。帰国後、中国語への関心がいっそう強くなり、3年次の1年間、再び母校で留学生生活を送りました。

「日本人として自信をもって」と正面から接してくれる友人に恵まれ、必死に勉強しました。2度の留学で得た知識と経験はかけがえのないものです」と振り返ります。

三瓶さん、大串さんばかりでなく、2008年度には、本学学生が数々の中国語・韓国語スピーチコンテストに参加し、優秀な成績を残しました。

中国語では、9月21日に行われた「札幌一藩陽友好都市提携記念 第26回中国語暗唱朗読大会」で、堀内真希さん (観光産業学科3年) が日本中



中国の湖南衛星テレビによる取材風景

国語検定協会賞を受賞。11月2日の「2008年度 全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」で、青池茉耶さん (観光産業学科2年) が暗誦の部で準優勝、中川太一さん (商学科3年) が朗読の部で第3位に入賞しました。

韓国語では、10月25日に行われた「第10回北海道韓国語弁論大会」で、清水洗平さん (商学科3年) が銀賞、西道結香さん (観光産業学科3年) と水谷達也さん (商学科3年) がそれぞれ銅賞に輝きました。

また水谷さんは、12月13日に千葉県の新田外国語大学で行われた「第7回全国学生韓国語スピーチコンテスト」の予選を突破、本学最初の全国大会出場者となりました。

今後の語学学習の成果に、ますます期待が高まります。

※学年は現在のもの



中国語暗唱朗読大会・スピーチ大会の入賞者



韓国語暗唱朗読大会・スピーチ大会の入賞者

[入賞原稿・日本語訳-要約]

汉语成就了我的人生之路 中国語の魅力~国へのカウントダウン~ 三瓶 司眞

我上大学的时候同时开始学汉语。半年之后,我去了山东大学威海分校留学,大三的时候学校我又去山东大学本部留学一年。我上大学的时候有一半的时间在中国学习。这真是一种说不出的缘分。两次留学过程中获得的知识和经历,都是在日本难以得到的。这一切对我来说是终生难忘啊。

现在仔细想想,以前我有学书法的经历,其实从那时起我的汉语倒计时已经启动了。从学书法,到学汉语,再到两度到中国留学,这一切真的改变了我的生命。



大学1年次に山東大学威海分校へ半年間語学留学。3年次には自発的に同校へ約1年間留学した。その過程で得た知識や経験は日本では得られがたい貴重なものであった。

大学で出会った中国語。その出会いが人生を大きく変えた。小さい頃から字を書くことが好きだったが、よく考えてみれば、以前の書道の経験も中国語に向かう大きな理由となっていたのだろう。その頃から、中国へのカウントダウンは始まっていたのかもしれない。



[入賞原稿日本語訳]

韓国と日本の連絡文化の違い 水谷 達也

韓国の文化と日本の文化は似ていますが、違いもあります。これから、私が経験した韓国人との出来事をお話したいと思います。私は大学1年生のときに、語学研修で韓国から日本に来た留学生の先輩と出会いました。私たちはすぐに仲良くなりました。まるで本当の兄弟のような感じがして、(ヒョン)と呼びました。韓国では日本の先輩より一層親しい間柄ではヒョン・トンセン (弟) と呼び合います。たくさん会って、一緒にご飯を食べたり、韓国の話をしながら毎日いっしょに過ごしました。大学の授業が終わると、ヒョンのところに言って、韓国語を教えてくださいました。そのおかげで私は念願の韓国留学に行くことができました。私は、ヒョンと別れるのがとても寂しかったけれど「必ずまた会おう」と約束して日本を旅立ちました。

半年後、留学を終えて韓国から帰国した私は、久しぶりにヒョンに会いました。私はヒョンが帰国するまであと2週間しか残っていないことを知りました。とても短い時間でしたが、せめて帰国までいっしょに過ごそうと思いました。しかし結局、時間だけが過ぎてしまいました。

ヒョンが帰国する日、空港でヒョンと会いました。と言ったのに、それが最後の挨拶になってしまいました。私は韓国語の勉強を始めて約1年半になります。韓国に留学し韓国を知ることによって、自分がヒョンに寂しい思いをさせていたことを知りました。あんなに仲良かったのに、留学中も全然連絡をしませんでした。そして今も、連絡先を知らず、日本人は仲良くなるまで連絡をあまりしないように思います。私はヒョンと毎日のように会っていましたが、連絡はありませんでした。しかし韓国人は仲良くなるほどよく連絡をするようになります。

韓国に留学したとき、韓国人の友達は今、何してる? 「ご飯食べた?」などと、特別な用はなくてもよく連絡してくれました。見知らぬ外国人に留学して、出会って間もない友達からの電話はとてもありがたく、心が温かくなりました。そしてその時初めてヒョンの気持ちが理解できました。

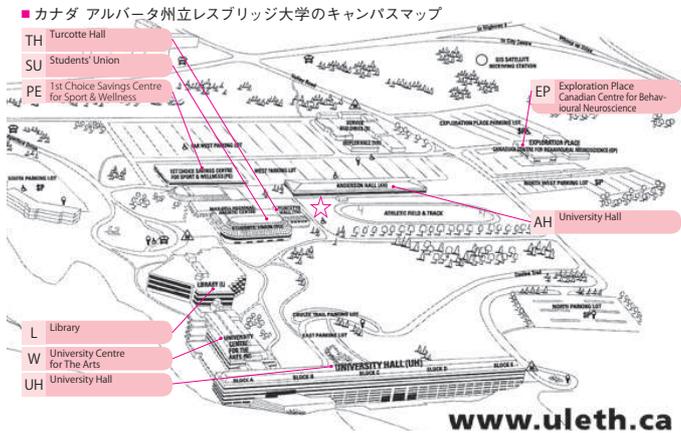
やはり連絡をしないと疎遠になってしまいます。韓国人に限らず相手に対する思いがあるなら連絡をたくさん取り合うことが大切だとわかりました。

私はヒョンに会って「あの時は寂しい思いをさせてごめん」と言いたいです。みなさんも留学生と付き合うときは、文化の違いを意識し、お互いに連絡をたくさんとってくださいます。私も、もしヒョンにまた会うことができるなら、今度はたくさん連絡をしたいです。

REPORT.. 報告4 レスブリッジ大学キャンパスの眺め

レスブリッジ大学交換教員 原子 智樹 准教授
 レスブリッジ大学のキャンパスは、市内三地区（ノース、サウス、ウェスト）の中でウェスト地区に位置し、市の中心部とはオールドマン・リバー（マップ下側を流れる）を境界にして対岸にある。バスが主要交通機関であり、キャンパス内の中心部に市内有数のバスループを有するが、学生はほぼ自動車を通う。主要建造物は、寒気と強風とを避けられるように屋内移動が可能なUH,W,L,SU,PEの各棟に加え、TH,AH,EPと建造中のMarkin Hallがある（マップ内の☆地点）。更に、幾多の学生向けレジデンスを擁している。キャンパス内には8階立ての建造物が4

階立ての建造物より低く見えるという特色があり、階数標示はフロアとレベルとが混用される。UH棟の8th floorはW棟の8th floorと連絡し、W棟の9th floorはほぼ全体が長い廊下となり、L棟のLEVEL 9に連絡する。L棟のLEVEL 10、11はSU棟のLEVEL 0、1に相当するわけである。しかし最下層階は、W棟が4th floorであり、L棟がLEVEL 9という具合である。これはキャンパスが河川側に向けて低くなっている谷間に建設されたためである。UH棟から各棟の通路を歩いていくと、地下に入ったような雰囲気を感じ、そこかしこで陽光が差し込んでくると地上を歩いているというような独特の感覚を覚える。これらの建造物群を縫うように、学生たちは一律10分間の休憩時間に教室を移動する。UH棟からAH棟へは急いでも15分はかかるころだろう。そうして、留学生を含め数千名の学生たちは、各自の勉学と仕事を両立させているのである。



www.uleth.ca



准教授 リスブリッジ大学学長、ワイリアム・H・ケイド氏と原子智樹



buffet・カフェテリア「クーリー・ジャンクション」(UH棟Aブロック6F)



最大5台が縦列待機するバスループ 正面はL棟、左手にSU棟

REPORT.. 報告5 研究室訪問 佐藤 博樹 教授 (観光産業学科専門科目担当)

1959年北海道佐呂間町生まれ。北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程修了(博士)。



少人数教育を行っている本学では、学生と教員との距離が近いのが特徴です。研究室も、日頃からオープンな環境を目指していますが、なかなか気軽には訪ねづらなのが現実。今回は佐藤博樹先生の研究室を、観光産業学科4年生の久慈和也君がゼミの後輩たちと一緒に訪ねました。

に向けた再生可能エネルギー利用の動向に注目し、特に世界的に普及しつつある太陽光発電の導入政策やエコビジネスに関心を持っています。
 K:大学で学ぶうえで、何かアドバイスがあれば教えてください。
 S:北海商大は、外国語教育に力を入れており、海外留学の機会も豊富にもうけていて国際性に富んでいます。この点で皆さんは大きなアドバンテージを持っていると思います。また情報教育に関しても、今日ビジネスの現場で求められる即戦力としてのコンピュータリテラシーは講義の中で身につけることと思います。重要なことは、培った語学能力やコンピュータ活用力を専門課程で習得する知識とに有機的に結びつけて相乗効果を生み出し、将来に向けてそれぞれの応用能力のブラッシュアップを図るかです。その点に留意しつつ、教員にアドバイスを求めながらも、自らが効果的な学習方法を工夫し会得する姿勢で臨んで欲しいと思います。

久慈君(以下K):先生は本学の前身である北見大学の1期生とお聞きしたのですが。
 佐藤博樹教授(以下S):そうです。家業(観光旅館業)などのことも考えて自宅近くを開学した商学部を選んだのですが、大学でよい恩師に出会いの道に入ることになりました。
 K:現在担当されている科目や研究テーマはどのようなことですか。
 S:現在は経済システム理論、コンピュータリテラシー、観光事業論やゼミナールなどの科目を担当しています。研究テーマですが、これまで環境経済学の立場から計量経済学的手法を適用して、行政が行っているゴミ収集処理サービスや焼却施設建設の経済的便益評価を行ってきました。また網走湖や北見市の水道事業を事例に、湖水や水道水質改善便益の経済評価なども行いました。最近では、低炭素社会の形成に

K:学生生活に関してはどうでしょうか。
 S:よく学生時代に得た友人が生涯の友人となると言われますが、学内外での「さまざまな出会い」を大切にしてほしいと思います。そして何事にも積極的に取り組んで、できるだけ多くのシーンと出会い、人間性の幅を広げて欲しいと思います。札幌市では国際的な学術会議、各種講座やイベントなどが頻りに開催されていて、皆さんは北海道で最もチャンスに恵まれた都市にいるのですから。その意味では久慈君も入学当初から比べるとずいぶん積極的になり、成長したように感じます。



佐藤博樹教授と、久慈君(2列目中央)と後輩のゼミ生

REPORT.. 報告6 著者に聞く 佐藤 馨一 教授

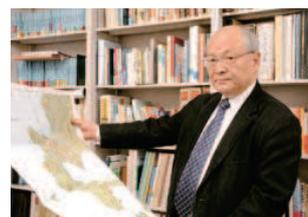
「北海道開発の役割は終わったのか?」(佐藤馨一教授・小林好宏北海道武蔵女子短大共著、北海道建設新聞社2008年12月発行、1,000円)が反響を集めています。
 これまでの北海道開発のあり方が、中央の視点で一方的に批判され、開発予算や公共事業費が大幅に削減されているなかで、豊かな資源を持つ北海道が果たす役割は本当に終わったのか、交通工学、経済学というそれぞれの専門の立場から検証し、反論を試みた内容の一冊です。

「」で議論が行われてきたとするなら、「ジャンケンルール」という異なるルールを見つけ出して議論を行い、新しい結論を導き出そうというのです。大学で学ぶということは、学生の一人ひとりがこの「ジャンケンルール」を見つけ出すことだといえます。高校までの勉学は「覚える」ことが中心です。それに対し大学では疑問を持ち「考える」ことが大切になります。つまり、高校で学んだ基礎の上に思考する力を身につけていくことが、大学で学ぶということなのです。知識を沢山持つことが大事なのではありません。どれだけ早く学生が自分の得意とするルールを見つけ出すことができるかを指導し、応援していきたいといえます。今回紹介した「北海道開発の役割は終わったのか?」には佐藤馨一教授の履修生で、本学商学科品木優美さん(出版時は2年生)の論文が採用、掲載されましたが、早くもその成果が現れているといえます。

この本のなかで佐藤馨一教授は、「北海道になぜ高速道路が必要か」「北海道新幹線はなぜ必要か」を論じています。高速道路、新幹線ともに経済活性化の起爆剤として道内では整備が期待される一方、費用対効果の面から北海道における整備が疑問視されてきたものですが、新たな根拠をもとにその必要性を説いています。
 一部を紹介すると、高速道路は時間短縮が効果として重視されてきました。それに対しこの本では、冬期間などの安全・安心な移動手段の確保という効果の検証をもとに、北海道におけるその必要性を論じています。また、新幹線についていえば、環境にやさしい交通機関として検証を加えているところなども、新たな問題提起といえます。
 北海道で高速道路や新幹線の整備が遅れてきた理由には、採算をはじめさまざまな問題があります。しかし、この本で特徴的なのは、これまでの高速道路不要論、北海道新幹線不要論と同じ土俵に立って、反論を加えていないところにあります。教授はこれを「ジャンケンルール」と名付けています。これまでは仮に「囲碁のル



著書を手し、佐藤馨一教授と品木優美さん



交通関係の地図を手にする佐藤馨一教授

らっしゃいますね。
 S:そう感じてもらえば光栄です(笑)。私も皆さんからエネルギーをもらいながら、同じ目線で共に成長できればと思いつつ語っています(笑)。

K:どうもありがとうございました。就職活動でも熱意を持って頑張ります。(この後も久慈君と佐藤先生は、就職活動の経過報告など、熱のこもった、会話が続きました。)

REPORT 報告7 ~北海商科大学と栗山町における交流協定事業について~

学生交流事業について

加藤 由紀子 准教授

北海学園と栗山町との交流は、以前からHINAS（北海学園北東アジア交流研究センター）を中心として行われている。その中でも中国とのつながりは深く、中国に関連した産学官共同事業や意見交流会などが盛んに行われてきた。また、HINASを訪問する中国からの研究者などとの視察地でもあり交流も多い。

2007年2月19日に栗山町と交わされた「地域総合交流協定」では、今まで行われてきた学術交流分野とともに、本学の学生が地域を訪れ、地域から様々なことを学ぶという双方向の交流が可能になった。

北海商科大学では、中国の山東大学威海分校、煙台大学、韓国の大田大学校と交流協定を結んでおり、2006年度から留学生を受け入れている。日本でも5番目に人口の多い札幌市では、特に北海道の基幹産業である農業については、講義だけではなかなか理解に結びつかない。また、今まだ農村部に残る、生活のなかで継承されてきた農村文化には、彼らにとっての「日本文化」のイメージに結びつくところが大きい。

2007年8月31日から9日間、初めて「地域総合交流協定」の一環として、留学生の職業体験と栗山町での国際交流のために、中国山東大学威海分校と煙台大学からの留学生7名を派遣した。栗山では農家でジャガイモやミニトマトの収穫作業や、保育園での子供の

保育を体験する傍ら、「児童センター祭り」でのボランティアを行った。栗山町からは、「そば打ち」や「陶芸」などの日本文化体験をセットして頂き、留学生たちは帰村後も栗山町の人たちと交流を続けていた。

翌2008年は8月3日から8日間、煙台大学と大田大学校の留学生10人が収穫作業のほか、町内の青年との交流会に参加して交流を行った。またホームステイも体験し、中にはホストファミリーと一緒に夕張市の夏祭りを盛り上げた学生もいた。

2008年6月には、1年生の社会文化ゼミで、教室の知と社会実践をリンクさせる新しい教育プログラムであるサービラーニングによる社会貢献型の体験学習を実施、学生たちの自己理解と栗山町の理解をすることにより、学びの転換の実践を行った。

具体的な成果を見いだせるのはまだ先になるだろうが、こうした取り組みにより大学での学びが、地域社会とかけ離れたところで展開されるのではなく、学生がどのようにそれを地域社会に還元していくのかを考えるきっかけになっているのは間違いないと考える。



中国・韓国留学生と栗山町民との交流 (2008年8月9日)

「くりやま地域創造大学」と連携 菊地均 教授

本学は地域貢献の一環として夕張郡栗山町の「まちづくりのインフラ」を推進するため、平成19年度に協定を締結いたしました。まず、連携事業として「くりやま地域創造大学」を立ち上げてもらい、その公開講座を担当することになりました。栗山町は現在、過疎化が進み、一般会計などを対象にした実質赤字の標準財政規模に対する比率(20%が財政再生基準)でみると、平成22年度には基準を超えることが見込まれています。そこで、第5次総合計画(平成20年度～平成26年度)では、財政再生団体への転落を未然に防ぐため、血のじむような自主的な改善努力をしております。本学では「町民だれもが生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、地域など様々な場で、生涯にわたって学び、活動することが可能な環境をつくり、文化の香り高いまちづくり」に協力をして参ります。

ちなみに平成20年度のビジネス支援講座は、本学から村松祐二教授が「テーマ：経営学入門——ビジネスプランを建てる時、リーダーが考えることは」、中島茂幸教授が「テーマ：会計からみる企業経営」、堤悦子准教授が「テーマ：人的資源管理から経営に必要なノウハウを知る」、菊地均教授が「テーマ：電子市場におけるGISマーケティングの応用」を担当しました。終了後、栗山町教育委員会主事の出原力氏から「金融危機の時代を見抜

く眼識」を養うことができましたという心のこもった感謝の言葉がよせられました。

世の中、ボーダレス化だグローバル化だといっても人間の意識というもの、その人の住んでいるコミュニティからかもしだされる一種の社会的な規範と密接な関連を持ってあります。したがって、その人の生涯における常識あるいは躰は、知らず知らずにそのコミュニティで養われたり身についたりすることが案外大きな意義を持っているように思えてなりません。本講座は栗山町との交流で、町民の創造性を地域の創造性に転換させることができれば、所期の目的を達成したこととなりますが、今回の試みはほんのスタートラインにたったところです。

最後に、栗山町の開祖・泉麟太郎翁(旧角田藩士)の詩「自治」を紹介し、報告に変えさせていただきます。

「おこたらず 真心こめて
治めなばすぐれし村と
なるものと知り」



くりやま地域創造大学 (2008年10月30日)

REPORT 報告8

東アジア観光情報学研究会

北海商科大学教員を主体とした、『観光情報学会』の下部研究会に属する「東アジア観光情報学研究会」を昨年11月に設立致しました(主査:伊藤昭男、幹事:細野昌和・加藤由紀子)

以下に設立の趣旨、活動報告、今後の計画(予定)をご紹介します。

【設立の趣旨】

設立の趣旨は、中国・韓国など東アジア諸国との観光交流の一層の活発化が予想される中、これからの国際地域間観光交流の現象を適格に理解・考察し、地域観光振興のあり方を探ることにあります。これに加えて本研究会の特徴は、観光を総合的複合的な現象として捉えようとする点にあります。すなわち観光を情報の観点から考えることは勿論、さらに環境やビジネスといった多様な考察軸も適宜加えるという総合的複合的な研究もあわせて推進したいと考えています。その意味で「観光情報」の概念を広く捉えた研究活動を展開したいと考えております。これらを含めて本研究会が重視する視点は次の諸点です。1.東アジアの視点(北海道を含めて)、2.比較的視点(地域間、国際間)、3.学際的視点(情報、環境、ビジネスなど)、4.研究情報およびデータの収集・創造。

なお現在、メンバーは北海商科大学の教員で構成されておりますが、趣旨に賛同する多くの方々から成る、全国的かつ産学官横断的な会としてゆきた

REPORT 報告9 北海学園北東アジア交流研究センター(HINAS・ハINAS)10周年シンポジウム

3月5日・6日、本学に拠点を置く北海学園北東アジア交流研究センター(以下、略称HINAS)設立10周年記念国際シンポジウムが開催され、「東アジア地域における協力的体制の構築日中両国の地位・役割と戦略思考」をテーマに日本側、中国側より二つの基調講演が行われました。HINASは文部科学省より学術研究高度化推進事業における「学術フロンティア推進事業」(人文・社会部門)の学術助成を受け、その拠点となる研究機関として平成11年(1999年)に設立されました。研究プロジェクト「北東アジア地域における経済協力的体制の構築と安全保障に関する研究」をテーマに据え、内外の研究機関をはじめ産学官と連携して研究活動・交流を積み重ね10年

が過ぎたところです。シンポジウム冒頭のHINASセンター長、本学森本正夫学長(学校法人北海学園理事長)による10年を振り返る挨拶に続き、中国側は、HINAS設立当初よりHINASの研究活動にご協力を頂いている谷源洋中国社会科学院名誉学部委員が、日本側は、この10年間、研究交流活動の中心として務めてきた本学商学部長でもある西川博史副センター長が講演を行いました。ひきつづき中国側は11名の研究者の方々、日本側からは本学川端俊一郎元教授ほか10名が出席し、HINASの10年の歩みを振り返るとともに、両国をはじめとする北東アジア地域のあらたな相互関係の構築について、それぞれの研究論文発表があり、これを基にさまざまな視点か

ら討論が交わされました。この成果は、HINAS設立10周年を記念する論文集として6月に刊行が予定されています。



ハINAS10周年記念国際シンポジウム

ら討論が交わされました。この成果は、HINAS設立10周年を記念する論文集として6月に刊行が予定されています。



3月26日の研究会

【活動報告】

1.年度末会議
平成21年3月26日(木)16:00より、北海商科大学8階北東アジア交流研究センター(HINAS)会議室にて、年

度末会議を開催し、設立の経緯および趣旨の報告、来年度事業計画等について検討を行いました。

2.研究報告会

上記年度末会議に引き続き、平成21年3月26日(木)17:00過ぎより、北海商科大学8階北東アジア交流研究センター(HINAS)会議室にて、研究会を開催しました。研究報告者および研究報告テーマは下記のとおりです(参加:9名)。
研究報告1:細野昌和(北海商科大学) テーマ「北海道における外国人旅行者への観光情報—課題と提供方法」
研究報告2:加藤由紀子(北海商科大学)

度末会議を開催し、設立の経緯および趣旨の報告、来年度事業計画等について検討を行いました。

【今後の計画(予定)】

以下の事業を計画してゆきたいと考えております。
なお詳細につきましては適宜、学会メール・ニュースでご案内する予定でおります。
・「文献サーベイ研究会」の開催。
・「研究報告会」の開催。
・「講演会」の開催。
・「情報交換会」の開催。
・「テキスト出版プロジェクト。例:大學生のための観光ビジネス学入門。」など。

TOPICS... 話題5

9月29日、本校校舎およびグラウンドにおいて、第三回北海商科祭が開催された。今回のメインテーマは「アジアの純心(真)」。本学の教育理念「アジアの時代に、アジアを学ぶ」に即したテーマ設定で、学生たちの「アジアへのこだわり」が随所に窺われる大学祭となった。

模擬店では、中国、韓国留学生(日本人学生も参加)による、中華風、韓国風アジアンテイストが人気を博し、早々とソールドアウトになった。また大学祭定番の「焼き鳥」「焼きそば」も好評で、学生たちは炭火の煙が立ちこめる中で、調理に大忙しだった。また、各模擬店では「四川省大地震災害者支援」チャリティ抽選券が販売された。

メインイベントステージでは、夕方から、北海商科祭恒例となった「YOSAKOIソーラン」の演舞が行われ、近隣市民の「舞とよひら」を始めとして、小樽商大、北海学園大などが、次々と、南国のリズムと北国の力強さの融合したパフォーマンスを見せると、観客から盛んな拍手を送られていた。最終イベントでは、「はもネブ」優勝者「じゃんずΩ」が登場した。ダイナミックなすばらしいハーモニーが広がると、中高生が一斉に舞台上に駆け寄った。エンディングでは、中国留学生の参加もあり、文字通りアジア・ビューティを競うことになった。「ミスター・ミス商科」の優勝者が発表され、最後に実行委員長藤島君から終了の挨拶があり、短くて、長かった商科祭の幕が閉じられた。

2008北海商科祭開催!



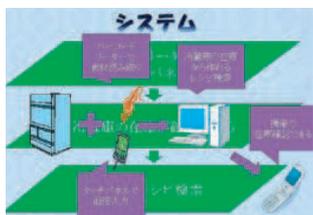
REPORT 10 キャンパスベンチャーグランプリ2008

本学では、商学の基礎から応用まで学び高度化する経済社会の要請にこたえて、新しい時代を担うことのできる企業家の育成をも目指している。こうした趣旨で開講されている「アントレプレナーシップ論」では、起業の際投資家から資金を募るためのビジネスプランの作成とプレゼンテーション手法を学んでいる。2008年後期の授業では、受講者が実際に創りあげたプランを学生のビジネスプランコンテストである「キャンパスベンチャーグランプリ」に応募した。その結果4グループのうちの2グループが決勝に進み、努力賞(3位相当)と佳作(4位相当)を受賞した。キャンパスベンチャーグランプリは、新事業の提案コンテストを通じて、日本の次代を担う若者の人材育成と新産業の創造を目的として、日刊工業新聞が主催し、内閣府、文部科学省、経済産業省、日本商工会議所、日本経済団体連合会が後援、大手企業が協賛し1回開催されている。コンテストのプレゼンテーションには、産業総合研究所長、発明家協会会長および実務家らが、シーズ(ビジネスの

種)の実用化という見地から活発に質問がなされ、厳正な審査が行われる。受賞したグループは、平成21年2月2日、札幌ガーデンパレスにおいて行われた表彰式に臨み、賞状の他、賞金を獲得した。受賞者名は以下のとおり。努力賞:青木健太、福岡諒、山崎哲史、佳作:藤岡大輝、佐々木也一、貫田雄介、出羽祐介、山本悠。



写真上から、努力賞受賞、佳作受賞の各グループ



入賞した青木君のグループによるプレゼン画面



12月15日に行われたプレゼンテーション

REPORT 11 2009年度サークル紹介

本学は課外活動やキャンパスでの日常生活には、充分なスペース・環境がまだまだ整っていません。昨年度は課外活動の拠点ともいえるべき、教育会館が出来上がるなど、徐々にではありますが、学生のための福利厚生施設の拡充に努めています。

このような環境にありながらも、法人北海学園内の系列校の施設を一体のものとして活用し、合同のサークルに所属するなど含め、活発なサークル活動を展開しています。

今年度はさらに新サークルや勉強会なども発足し、学習意欲だけではなく商科大生の積極性が課外活動に表れています。



ツーリズム研究会



陸上競技部



女子ラクロス部



野球部

2009年度サークル一覧

体育	野球部
体育	女子ラクロス部
体育	サッカー部
体育	バスケットボール部
体育	テニス部
体育	陸上競技部
体育	フットサル部 (REGISTA)
体育	スキー部
体育	ドッジボールサークル (Hi☆TACHI)
体育	バレーボールサークル
文化	中国語サークル (歡々喜々)
文化	ツーリズム研究会
文化	韓国語サークル
文化	軽音楽部
文化	映像部 (ETP)
文化	教育研究会
文化	環境ボランティア
文化	会計研究会
文化	キャリアアップサークル
文化	英語サークル (DOLCE)
文化	食文化研究サークル
文化	吹奏楽部 (北海商科ウィンドオーケストラ)
委員会	北海商科祭実行委員会
委員会	北海商科大生体育祭実行委員会
委員会	卒業アルバム制作委員会

TOPICS.....
話題6

速報!

熱戦にわいた!! 体育祭

2009体育祭開催

5月23日、NTT北海道セミナーセンター体育館を会場に、1年生から4年生まで約200名の参加者のもと、バスケットボール・ドッジボール・バレーボールの3種目で熱く、また楽しく賑やかな熱戦が繰り広げられました。

1年生入学後の初行事、中井裕作(商学科3年)君をはじめ、実行委員会の学生による準備の成果が実りました。



男子の結果 (競技種目と表彰チーム名)

バレーボール優勝○バレーで優勝
バレーボール準優勝○Bチーム

ドッジボール優勝○チームぶあいそ
ドッジボール準優勝○SBC

バスケットボール優勝○イケメンズ。
バスケットボール準優勝○函館

女子の結果 (競技種目と表彰チーム名)

バレーボール優勝○アタックNo.1
バレーボール準優勝○4年生。

バスケットボール優勝○たれぼんだ♡
バスケットボール準優勝○4 Seasons

INFORMATION... お知らせ1 新任教員挨拶・略歴、交換教員紹介

観光産業学科教授
大内 東
おおうち あずま



現代社会は情報ネットワーク(IN)の世界である。INを前提としたビジネスモデルこそが商いにイノベーションを起こすことができる現実的な唯一の方法である。これまで、複雑調和系工学を提唱し、それをコア理論として様々な領域の問題解決を研究してきた。その一環として観光情報学会を設立し会長を務めてきた。本学においては、KKK=〈観光、環境、介護〉の商いにおけるITの有効活用を教育・研究のテーマとして活動を行う。

1974年3月、北海道大学工学部大学院工学研究科博士課程修了(工学博士)、同年4月北海道大学工学部電気工学科助手、同助教授を経て、1989年4月に情報工学科教授。2004年4月、大学院情報科学研究科教授。2009年3月、定年退職し、4月から現職。

観光産業学科教授
大友 秀人
おおとも ひでと



「生徒指導論」、「臨床教育学」、「教育心理学」などの教職科目を担当します大友です。
今、教育界では、さまざまな問題の中で、教師の資質や力量が求められています。その中で大事なキーワードは、「カウンセリング」、「コミュニケーション」です。
本学の語学をベースに言語能力が豊かな学生から一人でも多くの教師が巣立っていくように全力でがんばりますので、よろしく願い致します。

1955年北海道生まれ。北海道大学卒業、筑波大学大学院教育研究科修了。高校教員(稚内大谷高校・稚内商工高校・札幌東陵高校)として20年勤めた後、2001年青森明の星短期大学、2009年4月から現職。

交換教員
宣 吉均 教授
ソン ギルギョン



大田大学校貿易通商学科教授。1952年ソウル生まれ。1989年、弘益大学校大学院博士課程卒業、経営学博士。1986年より大田で教鞭をとる。大田大学校経営学部長、企画協力処長などを歴任。韓国貿易学会・国際商学会理事。
日本・熊本学園大学・中国深圳大学でも交換教授をつとめた。
著書は『国際貿易通商論』、『物流概論』、『貿易英語』。

1997年に助教授に昇格した。
この数年来、主に留学生の中国語教育と教育管理の仕事に力を入れ、中国共通語の普及を推し進めてきた。煙台大学では、「漢語教程」、「漢語口語」、「漢語解読」、「HSK指導」、「中国文化」、「現代漢語音韻」、「大学国語」などの科目を担当している。

交換教員
黄 明玉 助教授
コウメイギョク



山東大学威海分校翻訳学院日本語学科の助教授。1988年、中国東北師範大学を卒業し、旅行社に勤務。十年前から山東大学威海分校で教鞭をとって日本語の教育を専念している。かつて日本甲南大学で一年間留学したことがあり、札幌には三回目である。今回、山東大学から来た留学生と一緒に札幌に訪れ、長期滞在するのは初めてである。

北海商科大学では「中国語Ⅰ」、「留学中国語」、「中国語会話・作文Ⅰ」などの科目を担当している。

交換教員
隋 艶 助教授
ズイエン



烟台大学国際教育交流学院の助教授、留学生中国語学科の主任。1961年中国山東省生まれ。1983年、山東師範大学中国文学部を卒業して教鞭をとり、

INFORMATION... お知らせ2 平成21年度父母説明会開催・行事予定

5月30日、3年次の保護者を対象としました「平成21年度父母説明会」が開催されました。

本学では、日頃の教育内容や学生支援の取り組みなどを保護者の方に知っていただくために、学年毎におこなっており、当日は約60名の保護者の方のご出席がありました。



今後、2年次の開催を予定しています。日程につきましては行事予定表をご覧ください。

今後の行事予定 (2009年分)	
6/20(土)	海外語学留学保護者説明会
6/27(土)	第1回オープンキャンパス
7/23(水)	振替講義日(月曜日分)
7/24(木)	振替講義日(水曜日分)
7/27(日)	前期講義終了
7/28(月)	夏季休業開始
7/30(水)	前期成績開示開始/成績異議申し立て受付
8/3(日)	成績異議申し立て受付終了
8/4(月)・5(火)	第2回オープンキャンパス
8/14(金)・15(土)・16(日)	全学休業日
8/26(火)	海外語学留学学生出発(予定)
9/1(日)	第3回オープンキャンパス
9/15(水)	4年次ガイダンス
9/16(木)	3年次ガイダンス / 4年次履修登録
9/17(金)	2年次ガイダンス / 4年次履修登録
9/18(土)	1年次ガイダンス / 3年次履修登録
9/19(日)	3年次履修登録
9/24(木)・25(金)	2年次履修登録
9/26(土)	大学祭 / 父母説明会(2年次)
9/28(日)	1年次履修登録
9/29(月)	1年次履修登録
9/30(火)	後期講義開始
10/3(日)	第4回オープンキャンパス
12/24(日)	振替講義日(月曜日分)
12/25(月)	冬季休業開始

INFORMATION... お知らせ3 『北海商科大学公開講座』

本学の社会貢献の一つとして平成19年度より、前期・後期の年2回、本学公開講座を開催しています。本公開講座は「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の特色ある教育に照らして中国社会科学院の研究者をはじめとする中国・韓国の研究者や企業家等の講演を含め、東アジアのグローバルな話題を提供しています(本学8階にある北海学園北東アジア研究交流センターHINASおよび中国社会科学院北海道研究交流センターによる全面的協力を得て開催しています)。

前4回のテーマは、2007年前期「新しい東アジアの展望」、2007年後期「日中ビジネスのダイナミズム」、2008年前期「世界の中の北海道」、



2009年前期公開講座ポスター

2008年後期「北東アジアの新潮流」で開催されました。土曜日開催にもかかわらず毎回多数の市民に参加頂くと共に全出席に近い方々もかなりの数にのぼり好評を得ております。
本年度も前期公開講座(全5回)を、5月16日(実施済み)を皮切りに開催する予定です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日程表(時間は10:30~12:30)		
日時・テーマ	講師名	
第一回 5月16日④	「中国の多国籍企業」	冨国明
	「多国籍企業とイノベーション」	伊藤 昭男
第二回 5月30日④	「現在の中国情勢」	工藤 哲輔
	「グローバル化と金融危機」	松原 英二
第三回 6月6日④	「中国の小都市での生活体験あれこれ」	山泉 昭二
	「他民族国家としての中国」	西川 博史
第四回 6月20日④	「日本映画が韓国映画に及ぶ影響」	宣 吉均
	「『ミネル』(経済学)と韓国」	水野 俊平
第五回 7月4日④	「中日経済協力の現状、課題および展望について」	張 青松
	「グローバル経済下の金融・食料・エネルギー」	柳川 博

お問い合わせ先: 北海学園北東アジア研究交流センター(ハイナス)
TEL.011-841-1108 FAX.011-841-1109
Eメール hinas@hokkai.ac.jp
ホームページ http://www.hokkai.ac.jp/hinas/

新任職員紹介

庶務会計
村上 大輔
むらかみ だいすけ



1977年 釧路市生まれ。北海学園大学経済学部経済学科卒業。

教務センター
三戸 義明
みとよしあき



1987年 札幌市生まれ。北海学園大学経済学部経済学科卒業。

学生のみならず、気軽に声を掛けてください。

少しでも皆さんのお役に立てるように、一生懸命頑張ります。

TOPICS... 話題7 2009年度交換留学生在が訪日

4月、交流協定校である中国の山東大学威海分校、煙台大学、韓国の大田大学校の3大学より、2009年度の交換留学生17名が訪日しました。語学プログラムを中心に1年にわたって本学で学ぶ留学生に、留学のきっかけや抱負について聞きました。



煙台大学からの交換留学生

■煙台大学 **吳 曉菲**(ウ ツヤオフェイ)さん
日本の経済成長と伝統文化が共存しているところに興味をもちました。中国の良い部分を伝え、日本の良い部分を持ち帰りたいです。来日前は心細かったのですが、たくさん頼れる友人ができましたし、近所にはいつも励ましてくれる八百屋さんがいたりして、毎日元気に学んでいます。日本の大学院への進学が目標です。

日本人学生との交流を通してお互いの国の文化を理解することです。特に、日本人の公共マナーはすばらしいと思います。日本語能力を高めて、将来は同時通訳の仕事に就きたいです。



山東大学威海分校からの交換留学生

■大田大学校 **張 恩禎**(チャン ウンジョン)さん
高校のときから日本が好きで、留学制度があることから大田大学校に入学しました。韓国の大学は自然に囲まれた郊外にあることが多いので、都市型大学は新鮮です。都市比較で日本のゼミを受講していますが、日本は住宅のつくりも学生の性格も個性的ですね。大田大学校の学生はみんな元気なので、仲良くしてください。



大田大学校からの交換留学生

■山東大学威海分校 **陳 翔**(チェン シャン)さん
日本のマンガを読んだのをきっかけに日本に興味をもち、自分の目で見てみたいと思い留学をめざしました。留学生活で最も大切だと考えているのは、